

# 農 大 情 報

平成24年 4 月号

編集発行：愛知県立農業大学校

## 平成24年度入学式を行いました



満開の桜咲く 4月11日(水)、多くのご来賓の出席を賜り、平成24年度入学式が行われました。

農学科72名(うち女子13名)、研究科16名(女子1名)の新入学生のいずれも、次代の農業を担う決意に満面を紅潮させ、厳粛な中にも初々しい式典となりました。

農学科の専攻別入学者は、鉢物・緑花木専攻3名、切花専攻11名、作物専攻5名、果樹専攻12名、露地野菜専攻15名、施設野菜専攻12名、酪農専攻10名、養豚・養鶏専攻4名です。また、研究科16名は園芸農産専攻です。

式典終了後は、学生寮食堂において新入生と父兄が会して、なごやかにハンバーグカレー昼食会となりました。

午後からは、学生証の交付等入学手続きや真新しい実習服や教科書の配付。寮生活や学校規則の説明会。舎室への寝具の持ち込みなどがあり、キャンパスは活気にあふれた一日となりました。(後藤玲司)

## 指導能力向上の研修会を開催

4月5日(木)、農学科指導職員を対象と

したスタートアップ研修を開催しました。

学生指導に係わる能力の向上を目的に新学期が始まる前のこの時期に実施したもので、転入者5名を含め農学科職員全員が参加しました。

今回の研修は農業高校教員経験をもつ職員を講師に実施しましたが、豊富な指導経験談からは、学生指導方法のヒントを多く学ぶ良い機会となりました。また、意見交換では、先輩職員の経験や指導事例を学ぶことができ、職員間の情報交換と指導方法の平準化を図ることができました。

今後も農業後継者や農業の担い手育成を効果的に取り組むため、指導職員の研鑽の場を設ける予定です。(柳澤淳二)

## 人気の高い雇用創出農業研修

4月4日(水)、10日(火)の2回にわたり、雇用創出農業研修(雇用セーフティネット対策訓練・農業科)の受講希望者を対象に見学会を開催しました。研修の趣旨や応募条件、研修の内容や注意事項等を説明するとともに、研修ほ場や学校施設を見学していただきました。両日で63名の参加をいただきました。

4月12日(木)に申込を締め切ったところ定員30名に対し54名から応募がありました。昨年も69名の応募があり、この研修への人気は高く、例年、二倍程度の応募倍率となっています。

雇用創出農業研修は、岡崎高等技術専門校が行う職業訓練で、農業経営の開始、もしくは農業法人等への就職を目指す離職者等を対象としています。研修内容は月曜日から金曜までの週5日間、合計160日(960時間)にわたる訓練で、全体の7割が農作業や農業機械、土壌診断、農産加工の実習、

2割が講義、1割が就農計画の作成や視察研修等にあてられます。

なお、昨年の実績では、27名が研修を修了し、このうち就農予定が17名、先進農家等で更に研修を行う方が4名、他産業への就業4名、未定2名となっています。

(石代正義)



## ニューファーマーズ研修受講希望者 面接会を開催

4月13日(金)、ニューファーマーズ研修の受講希望者に研修内容等の説明と応募者ひとり一人に面接を行い、将来構想の確認(就農計画等の聞き取り)を行いました。

このニューファーマーズ研修は、新規に就農を目指す農家出身者や非農家の新規農業参入者を対象として営農の基礎的知識・技術習得のために実施する研修で、180時間の講義・演習と、約150日間の自己ほ場もしくは先進農家等での実習によって構成されていますが、他にパソコンによる演習、校外視察、農業機械の免許等を選択することもできます。

受講希望者の将来の就農形態につきましては、後継者として就農する者5名、父母等は営農をしていなかったが、所有する農地で営農を希望する者4名、親とは別に独立した経営を目指す者3名、新規参入による経営開始を目指す者7名と多岐にわたっ

ています。

19名の応募者のうち、17名の研修受入れを決定しました。

また、講義等のみの聴講生についても、受講資格を満たす方から定員の範囲にて受け入れています。

なお、本校は今年度から始まった青年就農給付金(準備型)の県が認めた研修機関です。本研修も国が示した要件を満たすことにより、給付金を受給することができます。(石代正義)

## 本年度第1回目の県民講座を開催

一般の県民の皆さんを対象に県民公開講座「夏野菜の上手な作り方I」を4月23日(月)に開催しました。

この講座は、野菜づくりの基本的な知識を習得していただくことを目的としており、品目としては、トマト、ナス、キュウリ、ピーマンを対象としました。

講師は元農業総合試験研究員の加藤裕文氏で、日照、気温、土性と土づくりの観点から夏野菜づくりの基礎を中心に、収量を増やす工夫・病虫害の発生を少なくする栽培・農薬を減らす栽培など実用的な知識についても事例を交えて分かりやすい内容でした。

当日、101名の受講者は熱心にメモを取り、日頃の疑問などについて質問も活発に行っていました。この講座は、5月10日にも2回目を開催します。

本校は農業に対する理解と関心を深めていただくために、一般県民の皆さんを対象に栽培に関する講座と農産加工に関する講座を開講してまいりましたが、今年度は野菜栽培に関する講座を3回、果樹の剪定に関する講座を2回、地元農産物を主体とした農産加工実習を6回計画しています。

(石代正義)